

中国空母編隊の雛形を展示、空母発展が新たな段階へ

2017 年 01 月 06 日 08:56:53 ソース：人民網

阿部信行

(訳者コメント)

空母遼寧の遠海訓練の続報です。
航海に同行する記者が逐次記事を送るので、細切れ記事になりますが飽きずに紹介したいと思います。
今回初の遠海訓練との位置づけで、空母編隊での航海は、初期段階を演練するものと思います。中国軍はパレードが好きなので、広報写真用にそれらしく写しています。
米国空母が接近した場合、どう対応するかが試金石になります。このまま何事もなく航海が終わるとは思えません。



中国空母編隊の海上航行。撮影者：莫小亮

新年の第一日、空母遼寧を首とする堂々たる海軍編隊は南海で訓練を行った。軍事専門家梁芳は、人民網の取材に際し：今回の遠海訓練は、我国空母編隊の雛形を展示した。これは、わが空母発展 4 年間の初めての重要なテストであり、集大成である。そしてわが空母の発展が新たな段階に到達したことを示すものであると述べた。

わが空母の発展は、新たな段階に到達した。

報道によると、遼寧艦編隊は、南海に進入する前、渤海、黄海、東海等の海域を通り、宮古海峡経由、第一列島線を通過して西太平洋に入った。この前に、日本の海上自衛隊が東海方面で撮影した遼寧艦編隊の写真を見ると、遼寧艦編隊には、遼寧のほか、052D 型駆逐艦”長沙”、052C 型駆逐艦”鄭州”、”海口”、054A 型護衛艦”、”煙台”、” LINYI”、056 型軽護衛艦”珠洲”及び総合補給艦”高郵湖”が含まれていた。

梁芳は：これは、わが空母編隊の初めての遠海訓練であり、同編隊は空母編隊に必要な全ての要素を具備していた。その中に 052D と 052C 型ミサイル駆逐艦が含まれていたことは意義が大きい。その搭載するフェーズド・アレイ・レーダーは遠方から来襲する敵機を速やかに発見することができる。艦上の一体となった垂直発射系統はその目標を攻撃することができる。その上、054A と 056 型護衛艦の護衛は空母編隊全体に強力な区域防空能力を付与する。空母編隊は遠海に進出できる能力を有する。編隊の大型補給艦は、長距離を航海する空母編隊に燃料、弾薬を補給するとともに、兵士に食料、水等を支援する、と述べた。

また梁芳は：今回の空母編隊の遠海訓練は、わが国空母編隊の雛形を展示した。空母編隊は、多くの海区を跨ぎ、艦載機の戦術訓練を行い、空母編隊の指揮、操作系統、及び艦機融合水準をテストする。これは、空母編隊全体にとって大きなテストであるとともに、わが空母発展 4 年間の初めての重要なテストであり、集大成である。そしてわが空母の発展が新たな段階に到達したことを示すものである、と述べた。

以上